

昭和五八年度大宰府出土の木簡

昭和五八年度の大宰府史跡の発掘調査は、政庁前面の県道関屋―山家線と御笠川にはさまれた地域で数次にわたり行われたが、その概報が刊行された。そのうち特に不丁官衙地区南端の第八五次調査では、南北溝中から五八点に及ぶ木簡が出土した。内容は付札が二〇点を占め注目され、北方の蔵司地区付近で投棄された可能性が指摘されている。

福岡県教育委員会九州歴史資料館発行

『大宰府史跡 昭和58年度発掘調査概報』